

原子炉安全性研究炉(NSRR)の運転再開について(試験の実施状況)

日本原子力研究開発機構は、茨城県東海村の原子力科学研究所において、原子炉燃料の安全性を研究するための研究用原子炉である原子炉安全性研究炉(以下「NSRR」という。)の運転及び照射試験を3月24日に再開いたしました。再開初日には1年6ヶ月ぶりとなる安全性研究のための照射試験が行われ、順調に試験が進み予定通り終了させることが出来ました。

今回の照射試験再開に対して海外の研究者から祝辞をいただきました。なお、仮訳はJAEAによるものです。

●Olivier MARCHAND 殿

(IRSN(フランス放射線防護原子力安全研究所)、Program Manager)

「日本の新しい規制基準に適合し、より安全となったNSRRの運転再開のため、素晴らしい仕事を成し遂げたJAEAのNSRRチーム全員にお祝いを申し上げます。IRSNとJAEAは、今までフランスのCABRI炉及び日本のNSRR炉の2つの相補的な施設を利用することで反応度事故時の安全分野で協力してきました。私は、この協力関係が更に強められ、現在そして将来の核燃料の安全性を向上させることができるかと確信しています。」

[→原文はこちら](#)

●Daniel WACHS 殿

(INL(アメリカ アイダホ国立研究所)、US National Tech Lead for Fuel Safety Research)

「米国の燃料安全チームは、NSRR施設の運転再開に必要な認可を得たJAEAにお祝いを申し上げます。このユニークな試験用原子炉を使用して実施される重要な研究は、世界中の原子力エネルギーの安全及び経済的利用にとって必要不可欠です。共に研究できることを楽しみにしています！」

[→原文はこちら](#)

原子力科学研究所は、今後も引き続いて、NSRRを用いた試験研究を継続的に実施することにより原子力の安全性向上、原子力人材の育成及び原子力規制行政への技術的支援に貢献してまいります。

その他の研究用原子炉についても、立地地域の皆様をはじめ関係する方々のご理解を賜りながら1日も早い運転再開を目指してまいります。